

創立二十六週年紀念寮歌

雜誌部員 牛原 虛彦

時は遷りて瀬を速み
旅人若き假睡の
漂ふ舟は桃源の

岸邊の花は色褪せど
憧憬の幻影つみのせて
夢を破りて消ぎゆかん。

追回遠し白雲の
薫草深き武夫原に
玉露に濡れし姿もて

跡を慕ひてさ迷へば
夕月戀うる月見草
廿年の夢語るなり。

白金黄金鏤めて
剛と朴とを象徴にて
濁世の浪と戦ひし

鍛わし櫛の破邪の劔
戴く鐵の兜こそ
勇士が高き勳よ

嗚呼神はまし今日の日よ
來し方遠く見歸れば

漂ふ船の棹とめて
碧落遠く青にすみ

學^{まな}びの海の瞰^{わさひ}かけ

金龍紅蛇と輝けり。

いざや祝はん紀念祭

光輝燦たりその行手^{ゆくて}

繚亂の花咲き匂ふ

天の花園は開かれて

波路はるかに見渡せば

矜持ゆたけし五高魂。

祝創立紀元

瑞雲漠々歡歌頻

二十六回値吉辰。

邦家興學應有意

豈不相思當年春。

我校本領世所識

養成剛毅木訥人。

螢窓雪案三歲月

健兒不染世埃塵。

譬如蘇嶽亭々立

又似江水清且純。

此處俊髦千里志

相携自警又自新。

獨法三年

土肥

俊

三